

水際におけるヒト・モノの移動を 適正かつ円滑に行うのが使命

名古屋港、中部国際空港などにおいて水際での社会悪物品等の持ち込みを防ぎ、関税等の適正な課税徴収を行う名古屋税関。同税関はその役割上、貿易面からみる景気動向を最もよく知る機関の一つと言える。日本のものづくりを支える海と空の玄関口を管轄する河上洋右名古屋税関長に話を伺った。

（聞き手／中部財界フォーラム社代表取締役塚本隆）

――二〇一四年の総括をお願いします。

河上 日本経済のゆるやかな回復が続く中、東海地方は円安により輸出企業の手取り収益が伸びており、全国と比較しやや強い動きを見せています。

貿易では、二〇一四年に全国で八六兆円弱の輸入があり、輸出は輸入の伸びをやや下回る七三兆円強となっています。他方、名古屋税関は日本の輸出額の四分の一弱、一七・八兆円を担っています。

きな港が複数あるということです。

自動車は全国の約半分、自動車部品は約六割、航空機類は約七割、金属加工機械は約四割が名古屋税関管内から輸出されており引き続き、ものづくりの基幹産業の輸出基地となっています。

――輸出入から見た景気動向は。また、今後のリスク要因は。

河上 完成自動車はリーマンショック前が輸出のピークで、円高局面時に国内工場の海外移転が進んだこともあり、最近の円安にも拘わらず〇七年を一〇〇とする、現在その七割未満です。自動車部品は約一割増の二兆円強、航空機類は二倍強の四〇〇〇億円弱に増えていますが、自動車の落ち

込みカバーには至っていません。

輸入は一年の東日本大震災以降、全国的にエネルギー関係が増えています。しかし一四下期は原油安の状況となっており、今年以降、この傾向とともに円安が進まなければエネルギー輸入額は減ってくると思われます。

内閣府の試算によれば、原油価格が五〇％下落すると年間五・六兆円、GDPの一・二％のプラス効果があるといえます。他方で原油価格が急落すると一部の産油国のデフォルトから国際金融市場の大混乱を招くこともあり得るため、注視が必要です。

ギリシャの新政権が債務のリスクを求めていることについては、〇九年来のユーロ危機の経験から

大混乱は避けられるよう対策は打たれている筈ですが注意は必要です。

さらにISILのテロ拡大は日本人にとっても脅威であり、世界経済全体にとってリスク回避的な行動による経済萎縮もリスク要因かと思えます。

現在の円安状況は輸入企業にとって相対的な負担増になっています。この地域には穀物、食品関係の企業も多数あるため、円安が進

みずぎるのも善し悪しですね。

――この地方の輸出入の特色は。

河上 自動車、航空機関連の輸出が全国一という特徴は先述の通りです。

他方、三河港は輸入車の取扱いにおいて金額、台数ともに二二年連続一位です。また、名古屋港をはじめとする伊勢湾地域は穀物の大きな輸入基地としても利用されており、今後さらにその機能を強化する構想もあります。

――不正薬物等の密輸対策について。

河上 年明け以降、イスラム・テロ組織に対する国際的な対策が焦眉の急となっており、この関連で銃器や爆発物の流入を水際で防ぐのが税関の大きな使命です。

不正薬物等の摘発に関しては、麻薬探知犬が空港の手荷物や乗客、郵便物などの検査

で活躍しています。他にX線など科学的方法での検査や異物探知など、色々な方法で水際の取締りを行っています。

昨夏から呼称を変えた「危険ドラッグ」は、規制薬物・指定薬物の構造をわずかに変えたものであり、これに対応して厚生労働省も新しい薬物を次々指定しています。昨年四月には数十種類だったものが、本年一月現在で一四〇〇を超えました。財務省関税局・税関としては今通常国会における関税法改正をお願いしており、指定薬物を輸入してはならない貨物として没収できるようにする方針です。

税関は他に知的財産侵害物品なども取締対象としており、特許・商標権者等の権利保護にも努めています。

――名古屋税関として今後の抱負をお願いします。

河上 税関の一番重要な課題は不正薬物や銃器、爆発物などを取り締まり、国民の皆様の安全・安心な社会を守ることです。また、税関は適正かつ公平に関税等を

徴収するのが第二の使命であり、一三年度では関税や消費税など六・五兆円、国税収入の約一三％弱を徴収しており、歳入機関としても大きな役割を担っています。

第三に、ヒトやモノの移動が活発化する中、通関手続きをなるべく迅速化しています。貿易円滑化のため、セキュリティやコンプライアンスの優れている事業者の通関手続きを簡素化する認定事業者（AEO）制度、通関書類の電子化・ペーパーレス化、EPA（経済連携協定）などの利用を更に進めていきたいと思っています。

観光に関しても昇龍道プロジェクトが中部運輸局などにより推進されています。我々も水際のヒト・モノの移動の円滑化などで協力すべく努力しています。

個人的には名古屋に来て半年、周辺地域の経済や観光の宣伝もしていきたいと思っています。体験しなければ他人に話したり勧めたりできませんから、昨秋以降は、東海道沿線の愛知・静岡はもとより、三重、岐阜、長野の多数の企業・工場や観光施設を訪れています。



河上 洋右（かわかみ ようすけ）
昭和三十五年十一月十九日生まれ。同五十八年大蔵省入省。同六十年国際通貨基金（ワシントン）派遣。平成元年掛川税務署長。同八年外務省在ロシア日本国大使館一等書記官。同十五年経済協力開発機構（パリ）派遣。同二十二年外務省在英日大使館公使。同二十五年財務省大臣官房参事官。同二十六年七月四日より現職。